

III. 診療科活動狀況

2024年4月～2025年3月

内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
副院長、救急・総合内科部長	後藤 慶太郎
副院長、救急・総合内科科長	守谷 能和
消化器内科科長	
副院長	小野 未来代
内科部長、透析科科長	肥田 徹
内科診療部長	辻 忠男
内科診療部長、糖尿病科科長	村上 哲雄
循環器科科長	金子 史
呼吸器内科科長	原澤 慶次
技術部長	市川 篤
医員	福庭 熊
	下川 郡明
	松村 憲浩
	松村 綾
	開原 英範
	富山 桃子
内科専攻医	瀧田 郁洋
	章 浩博
	天笠 謙
	青砥 航介
	今泉 瑠々花
	木村 和俊
	松嶋 峻矢
総合内科専攻医	揚野 佳太
	松原 知穂
	新井 朋代
	小田 陽子
おおみや診療所・所長	山田 晃務

※他科と重複している場合があります

2. 初期研修医

2023年卒	飯野 哲瑠、北島 奏愛、 (7名) 谷垣 親禾文、仲谷 美穂 橋本 大輝、武藤 寛亭 薬 英昭
2024年卒	小野 祐実、川村 咲 (8名) 厨 菜々映、島崎 翔 新海 麗圭、戸田 さくら 二宮 陸、馬場 有夢

3. 概要、特徴、特色

- (1) 地域医療の最前線で、いかなる患者様にも対応できる総合力を持つ内科でありたいと考えて診療を行っています。
- (2) 初期研修医は2つの内科病棟(南4病棟、東4病棟)のいずれかに所属して研修を開始します。内科は、初期研修医が基本的な診療スタイルを身につける役割を担っています。

4. 実績

- (1) 外来科別患者数 単位：人

	実患者数	患者のべ数
急患内科	18,798	23,761
循環器内科	5,921	6,927
消化器内科	7,940	9,174
糖尿病内科	8,428	9,985
呼吸器内科	4,381	5,819
腎臓内科(透析)	2,848	3,431
甲状腺内科	1,151	1,356
血液内科	1,031	1,551
神経内科	1,510	1,877
救急・総合内科	6,516	7,560

- (2) 入院医療

	南4病棟	東4病棟
病床数	42床 HCU8床	50床

5. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 学術・研究等の発表 (188頁参照)

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2024年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病名 6 桁	傷病名	件数	平均 年齢	平均 在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	※ 手術 あり 症例	診断 ・ 検査	計画的 繰り返 し入院	その 他の 加療	構成 比%	累積%
060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	344	68.8	2.0	1	57	331	5		339	8.8%	8.8%
060360	慢性膵炎（膵囊胞を含む。）、自己免疫性 膵炎、膵石症	230	61.4	7.6	7	58	216	8		222	5.9%	14.7%
040080	肺炎等	217	76.9	12.9	101	46	2			217	5.5%	20.2%
050130	心不全	195	81.3	15.1	97	20	5			195	5.0%	25.2%
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	154	75.6	9.3	36	30	134			154	3.9%	29.1%
040081	誤嚥性肺炎	141	84.1	17.8	100	31	7			141	3.6%	32.7%
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	136	76.9	14.1	78	12	3			136	3.5%	36.2%
010060	脳梗塞	128	77.8	27.4	58	30	2			128	3.3%	39.4%
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性 腎不全	121	71.9	9.1	6	48	85			121	3.1%	42.5%
110310	腎臓又は尿路の感染症	113	76.8	12.5	55	18	2			113	2.9%	45.4%
10007x	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシス を除く。）	112	68.1	11.0	11	21	1			112	2.9%	48.3%
180010	敗血症	96	79.2	21.8	74	14	10			96	2.5%	50.7%
06007x	脾臓、脾臓の腫瘍	91	72.7	5.9	5	20	14	52	7	32	2.3%	53.0%
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	86	73.6	3.3	1	30	10	72		14	2.2%	55.2%
040110	間質性肺炎	69	78.8	23.0	27	7		2		67	1.8%	57.0%
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	61	65.7	13.3	28	8	6			61	1.6%	58.6%
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	57	72.8	8.0	17	14	5	1		56	1.5%	60.0%
040040	肺の悪性腫瘍	52	76.2	11.5	5	13		20	9	23	1.3%	61.3%
030250	睡眠時無呼吸	47	60.4	2.3		31	1	45		2	1.2%	62.5%
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	46	75.4	9.0	23	5	2			46	1.2%	63.7%
080010	膿皮症	45	74.9	11.2	13	8	1			45	1.1%	64.9%
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 (穿孔を伴わないもの)	45	70.3	9.3	18	7	14			45	1.1%	66.0%
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	44	71.4	9.4	4	6	31	3	2	39	1.1%	67.1%
060350	急性膵炎、被包化壊死	42	60.7	17.2	13	8	19	4		38	1.1%	68.2%
110290	急性腎不全	42	76.7	11.5	23	4	2			42	1.1%	69.3%
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その 他の良性疾患）	42	71.7	8.5	10	11	5	2		40	1.1%	70.3%
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	41	76.9	14.6	8	9	27	1		40	1.0%	71.4%
060020	胃の悪性腫瘍	40	76.8	7.7	3	6	29	1	1	38	1.0%	72.4%
040120	慢性閉塞性肺疾患	40	77.5	17.6	27	4	1			40	1.0%	73.4%
060210	気管支拡張症	37	72.3	9.9	14	12				37	0.9%	74.4%
030400	前庭機能障害	35	73.1	4.6	31	3				35	0.9%	75.3%
060380	ウイルス性腸炎	35	50.9	5.9	11	5				35	0.9%	76.2%
130090	貧血（その他）	35	78.5	9.7	11	9				35	0.9%	77.1%
040100	喘息	34	66.9	10.6	12	4	1			34	0.9%	77.9%
060190	虚血性腸炎	30	68.6	10.1	8	2				30	0.8%	78.7%
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	26	60.8	11.5	10	3	1			26	0.7%	79.4%
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	26	75.4	22.7	15	6	3			26	0.7%	80.0%
	その他	783									20.0%	100.0%
	計	3,918									100.0%	

循環器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
科長	金子 史
医員	福庭 熊
秩父生協病院・院長	山田 昌樹
非常勤	6名

2. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査、心臓 CT 検査などを行い、心臓病の早期発見に努めています。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常 2 泊 3 日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈 CT 検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息息き外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

- ①主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など

②手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療

③ペースメーカー外来

(2) 検査・治療

検査及び処置名	件数
経皮的冠動脈ステント留置術	11
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	4
ペースメーカー交換術	7
四肢の血管拡張術・血栓除去術	13
心臓カテーテル検査	109
UCG（経胸壁心エコー）	2,204
経食道心エコー	29
ホルター心電図	412
トレッドミル	6
冠動脈 CT撮影	49

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2024年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病名 6 桁	傷病名	件数	平均 年齢	平均在 院日数	救急 搬送	紹介 あり	※手術あ り症例	診断・ 検査	その他 の加療
050030	急性心筋梗塞(続発性合併症を含む)、再発心筋梗塞	3	85.0	10.0	2				3
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	86	73.6	3.3	1	30	10	72	14
050060	心筋症(拡張型心筋症を含む)	1	52.0	4.0	1				1
050070	頻脈性不整脈	7	76.9	10.1	2	2	1		7
050080	弁膜症(連合弁膜症を含む)	2	90.0	13.5	1	1			2
050090	心内膜炎	8	70.4	32.5	6	1	2		8
050130	心不全	196	81.2	15.7	98	20	5		196
050140	高血圧性疾患	2	50.5	8.5	1				2
050161	大動脈解離	2	78.5	6.5	1	1	1		2
050170	閉塞性動脈疾患	27	73.8	6.4	1	4	12	13	14
050180	静脈・リンパ管疾患	15	70.4	12.3	10	2	3		15
050190	肺塞栓症	9	70.1	13.1	4	1	1		9
050200	循環器疾患(その他)	5	65.0	6.2	1	2			5
050210	徐脈性不整脈	10	80.4	10.4		4	9		10
050340	その他の循環器の障害	1	89.0	7.0	1				1
計		374	73.8	10.6	130	68	44	85	289

呼吸器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
科長	原澤 慶次
技術部長	市川 篤
医員	松村 綾
医員	章 浩博
熊谷生協病院・副院長	宮岡 啓介
非常勤	4名

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺がんなどに対する診療を外来・病棟で展開しています。外科とも連携し、肺がん手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども行っています。

また、当院呼吸器内科の特色の一つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

日本呼吸器学会認定施設

3. 診療実績

(1) 外来診療

実患者数	のべ患者数
4,381人	5,819人

(2) 病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺癌などを扱っています。

(3) 検査・手術等

処置検査	件数
気管切開術	5
新規在宅人工呼吸管理	5
気管支鏡検査	38
在宅酸素療法新規導入	115
胸腔穿刺	60
局麻下胸腔鏡	3

(4) 呼吸器医療チーム (181頁参照)

4. 次年度に向けて

引き続き年1回、地域住民に向けて慢性閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙していきます。

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2024年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病名 6 桁	傷病名	件数	平均 年齢	平均 在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	※手術あ り症例	診断 ・ 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
040010	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	1	77.0	4.0		1				1
040040	肺の悪性腫瘍	113	76.9	16.8	17	51	11	20	10	83
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	7	73.7	35.4	1	2	2			7
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	22	24.9	5.6	6	2				22
040080	肺炎等	271	62.5	11.2	103	51	2			271
040081	誤嚥性肺炎	141	84.1	17.8	100	31	7			141
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感 染症（その他）	45	13.6	6.0	7	9				45
040100	喘息	54	43.2	8.3	17	5	1			54
040110	間質性肺炎	69	78.8	23.0	27	7		2		67
040120	慢性閉塞性肺疾患	40	77.5	17.6	27	4	1			40
040130	呼吸不全（その他）	3	69.7	45.0	2		1			3
040140	気道出血（その他）	1	73.0	6.0			1			1
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	34	76.7	26.8	19	6	9			34
040151	呼吸器のアスペルギルス症	9	79.7	25.7	3	3	1	2		7
040160	呼吸器の結核	5	85.6	21.8	2	1				5
040170	抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	9	74.9	17.0	1	3		4		5
040190	胸水、胸膜の疾患（その他）	12	80.3	20.8	4	3				12
040200	気胸	14	53.7	12.6	4	4	4			14
040220	横隔膜腫瘍・横隔膜疾患（新生児を含む。）	5	86.2	12.8	1	2	1			5
040230	血胸、血気胸、乳び胸	1	89.0	8.0						1
040240	肺循環疾患	1	87.0	24.0	1					1
040310	その他の呼吸器の障害	2	51.0	14.0	2					2
計		859	69.0	17.3	344	185	41	28	10	821

消化器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
埼玉協同病院長	増田 剛
内科診療部長	高石 光雄
副院長	小野 未来代
ふれあい生協病院長、内科主任部長	忍 哲也
内科部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
消化器内科科長	
内科診療部長	辻 忠男
医員	大石 克巳
	開原 英範

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

- (1) 地域に密着した急性期病院の消化器内科としての役割を果たすべく診療に当たっています。
- (2) 1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間3,700件に及び、消化管出血や黄疸・胆管炎の患者様も数多く来院されるため、救急医療における消化器内科医の役割は大きいです。
- (3) 上下部消化管内視鏡検査、内視鏡的胆管造影および関連処置、超音波内視鏡検査、治療内視鏡等を行っています。
従来の大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)に加えて上部下部早期癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)の件数も増加しています。緊急胆道ドレナージも積極的に行っています。膵石治療の経験豊富な辻忠男医師の指導の下、慢性膵炎の診療実績は日本屈指となっております。
- (4) 消化器専門外来では炎症性腸疾患、慢性肝炎・肝硬変、肝細胞癌などの慢性期管理を行っています。B型・C型慢性肝炎への経口抗ウイルス治療の件数や、炎症性腸疾患へのバイオ製剤投与実績も増加しています。
- (5) 医局が同一である強みを活かして外科と緊密に連携を取り、必要な場合はスムーズに手術まで繋げています。
- (6) 癌化学療法を受ける患者様も年々増加しており、キャンサーサポートを行って方針を検討しています。

3. 診療実績

(1) 検査・処置数

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	8,776
上部(悪性)ESD	32
上部(悪性)EMR	1
上部(良性)EMR	0
下部消化管内視鏡検査	1,607
下部(悪性)ESD	31
下部(悪性・良性)EMR	366
超音波内視鏡検査(上部・下部)	110
PEG交換(PTEG含む)	39
PEG造設	14
PTEG新規	0
血管塞栓術(腹腔内血管等)	8
TAE〔肝動脈塞栓療法〕	33
EIS〔内視鏡的静脈瘤硬化療法〕	2
EVL〔内視鏡的静脈瘤結紮術〕	5
内視鏡的消化管止血術(小腸結腸以外)	33
小腸結腸内視鏡的止血術	8
食道ステント留置術	0
胃・十二指腸ステント留置術	4
下部消化管ステント留置術	11
消化管拡張術	6
肝生検・その他の生検	0
穿刺(膿瘍・胆のう)	0
膵石ESWL(一連)	367
膵・胆道系検査・処置(ERCP)	498

肝炎経口治療	件数
B型慢性肝炎(核酸アナログ治療)	16
C型慢性肝炎(経口治療)	2

(2) 消化器内科医療チーム (181頁参照)

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2024年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病名 6 桁	傷病名	件数	平均 年齢	平均 在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	※手術あ り症例	診断 ・ 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
060010	食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	16	77.2	15.9	2	9	6		1	15
060020	胃の悪性腫瘍	93	76.3	13.9	5	27	52	1	9	83
060030	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	11	72.9	28.9	1	5	3			11
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	158	72.9	14.1	11	36	93	5	25	128
060040	直腸肛門（直腸 S 状部から肛門）の悪性腫瘍	55	68.7	13.0		15	33	2	7	46
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	77	76.2	17.4	9	18	48	1	1	75
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	37	79.9	21.8	6	14	21	2		35
06007x	脾臓、脾臓の腫瘍	138	73.4	9.9	9	41	23	52	21	65
060080	食道の良性腫瘍	1	78.0	2.0				1		
060090	胃の良性腫瘍	4	73.5	2.5			1	3		1
060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	371	69.0	2.1	1	59	357	5		366
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	76	67.7	9.1	19	16	14	1		75
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他 良性疾患）	52	74.2	9.9	14	13	8	2		50
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿 孔を伴わないもの）	45	70.3	9.3	18	7	14			45
060141	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿 孔を伴うもの）	1	76.0	12.0	1		1			1
060150	虫垂炎	70	44.2	6.6	11	14	54			70
060160	鼠径ヘルニア	90	70.0	4.1	1	13	90			90
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	14	71.3	7.0	5	1	13			14
060180	クローン病等	5	79.6	15.0	3	1	3			5
060185	潰瘍性大腸炎	23	56.4	15.8	3	2				23
060190	虚血性腸炎	32	68.0	9.9	8	2				32
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	130	72.4	13.4	47	32	25			130
060230	肛門周囲膿瘍	1	88.0	4.0						1
060241	痔核	1	60.0	2.0		1				1
060250	尖圭コンジローム	2	33.5	6.5		1	2			2
060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	7	67.7	10.3		3		1		6
060280	アルコール性肝障害	8	63.5	9.0	3					8
060290	慢性肝炎（慢性 C 型肝炎を除く。）	4	65.3	7.5		2		2		2
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	65	65.8	13.2	28	10	8			65
060310	肝膿瘍（細菌性・寄生虫性疾患を含む。）	11	65.4	19.9	1	3	6			11
060320	肝囊胞	3	71.3	15.0			1			3
060330	胆囊疾患（胆囊結石など）	36	65.3	5.1	1	8	33			36
060335	胆囊炎等	144	67.3	9.6	26	18	123	4		140
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	185	75.3	10.0	42	38	159			185
060350	急性膵炎、被包化壊死	43	61.0	17.3	13	8	19	4		39
060360	慢性膵炎（膵囊胞を含む。）、自己免疫性膵 炎、膵石症	230	61.4	7.6	7	58	216	8		222
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	28	60.0	25.3	7	7	23			28
060380	ウイルス性腸炎	49	39.3	5.6	16	8				49
060390	細菌性腸炎	10	45.7	5.3	4	4				10
060391	偽膜性腸炎	1	92.0	32.0						1
060570	その他の消化管の障害	4	67.8	18.5	1	1				4
計		2,331	67.9	11.6	323	495	1449	94	64	2,173

糖尿病内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
内科診療部長、科長	村上 哲雄
医長	島村 裕子
医員	肥田 徹
	高橋 きよ子
	坂下 杏奈
	余川 真里
	富山 桃子
非常勤	2名

※他科と重複する場合があります

糖尿病学会認定研修指導医 3名

糖尿病学会専門医 5名

院内 CDEJ (Certified Diabetes Educator of Japan) 8名

合併症管理料算定者 4名

日本内科学会総合内科専門医・指導医 1名

日本腎臓学会腎臓専門医 1名

日本透析学会透析専門医 1名

2. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとて、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと共同して患者教育にも努めています。

3. 診療実績

(1) 外来診療 (2024年延べ患者数10,201人 / 1ヶ月平均850人)

①糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。

②糖尿病外来教室として“はじめくん外来”を行っており、診察・栄養指導・看護師面談も並行して行い、

合併症の評価もしながら指導しています。今年度の参加者は33名で換気を十分にし、講義時間を短縮する感染対策を行いました。

③インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は当該期間（2023年4～6月）で717人（うち75歳以上299人）でした。必要時、インスリン注射の手技の再チェックを行っています。

④GLP-1注射薬（ビテュリオン、ビクトーザ、リキスマ、バイエッタ、トルリシティ、オゼンピック）も導入しています。

⑤CSII（持続皮下インスリン注入療法）も行っています。

⑥CGMS（持続血糖モニタリングシステム）も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れています。入院、外来で施行しています。

⑦フットケアも実施しております。足の管理、足病変の早期発見に努めています。算定件数は37件で、予約枠は8枠/週となっています。

⑧糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的に行い、2024年では63名指導しました。腎症3期の指導ができるスタッフが3名増加しました。

⑨糖尿病患者会、日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会は再開しています。

(2) 病棟診療

①糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育を行い、196名がコントロールを行いました。

(3) 糖尿病医療チーム (179頁参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育

①糖尿病カンファレンス (毎週1回)

医師、コメディカルスタッフで行っており、2024年の症例数は46人。参加職種は医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、作業療法士、理学療法士です。患者の日常生活環境、問題点等について検討し、指導のポイントについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。

②糖尿病医療チーム会議 (毎月1回) (179頁参照)
新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

③第66回 日本糖尿病学会年次学術集会に参加

(2) 研究

- ①糖尿病合併症進展因子についての検討
- ②糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

(3) 学会・研究等の発表 (188頁参照)

なし

腎臓内科(透析)**1. 医師体制**

役職名等	氏名
科長、内科部長	肥田 徹
糖尿病内科医長	島村 裕子
非常勤医	3名

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

- (1) 腎臓内科では、主に慢性腎臓病の診断、保存期治療を実施しています。
- (2) 腎臓内科、及び透析科では、急性期治療として緊急透析、持続緩徐式血液浄化、免疫吸着療法等を実施し救命治療に従事しています。また他院に通院している透析患者の急性期治療中の維持透析、また周術期の透析管理を実施しています。
- (3) 当院では、末期腎不全患者の透析導入施設としての役割があり、安全に透析導入し、維持透析クリニックへ紹介しています。

3. 診療実績

(1) 患者数

		実人数	のべ人数
腎臓内科	外来	808	3,433
透析	外来		8,589
	入院		1,723

(2) 手術・透析等

内シャント造設件数	28件
経皮的シャント拡張術	64件
維持透析導入患者数	22件
維持透析件数	9,618件
急性血液浄化	人工腎臓
	38件
	持続緩徐式血液浄化
	15件
	エンドトキシン吸着
	0件
	血球成分除去療法：
	20件

■診療実績（診断群分類 6 枝別、2024年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病 6 枝	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例 ※	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
11001x	腎腫瘍	2	79.0	8.0	1					2
110050	後腹膜疾患	3	79.0	38.7	1	1				3
110060	腎孟・尿管の悪性腫瘍	2	84.5	21.0	1	1				2
110070	膀胱腫瘍	1	92.0	46.0	1	1				1
11012x	上部尿路疾患	4	70.5	9.3	2					4
11013x	下部尿路疾患	3	77.3	10.7	1		1			3
11022x	男性生殖器疾患	3	79.3	17.0		1				3
110260	ネフローゼ症候群	4	73.3	18.0	1	2				4
110270	急速進行性腎炎症候群	1	89.0	4.0						1
110275	急性腎炎症候群	3	8.7	12.0						3
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	122	71.9	10.8	6	48	86			122
110290	急性腎不全	43	75.1	11.3	24	4	2			43
110310	腎臓又は尿路の感染症	116	74.9	12.3	55	18	2			116
110320	腎、泌尿器の疾患（その他）	3	79.0	28.7	1	1				3
計		310	73.4	12.2	94	77	91			310

救急・総合内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	後藤 慶太郎
科長	守谷 能和
医員	陣内 真理子
初期研修医	15名

※他科と重複している場合があります

2. 診療科の特徴

埼玉協同病院は「二次救急指定病院」として入院や手術を必要とする重症の患者さんの救急医療を24時間体制で担っています。ERには、川口市や近隣のエリアから救急車で多くの患者さんが運ばれてきます。現在は、1日10台前後、年間約4,000台前後の救急搬送を受け入れています。また、HCUや院内急変にも救急科が対応しています。

3. 救急搬入

救急搬入患者数	4,250人
(要請数)	8,925人
(受入率)	48%
(入院数)	1,457人

在宅医療

1. 医師体制

役職名等	氏名
リハビリテーション科診療部長	稻村 充則
ふれあい生協病院院長	忍 哲也
非常勤	有田 圭介
※他科と重複している場合があります	

2. 診療科の特徴

埼玉協同病院は開設以来40年以上、民医連の歴史を受け継ぎ、在宅医療を行ってきました。介護保険が始まった2000年頃は当院の在宅患者数は240人程度となっています。厚生労働省が医療機能分化のために2006年に在宅療養支援診療所、2008年に在宅療養支援病院(200床以下)の制度を作りました。当時、この地域で、往診／訪問診療を定期的に行う医療機関は皆無に近い状態でした。診療報酬上の制度が出来てもなかなか増えませんでした。

この移行期に、病院としては在宅医療部門をそのまま残し、それまでの患者さんに加え、経済的・社会的に困難な方や最期を住み慣れた場所で過ごしたいという方への訪問を継続することにしました。全国をみわたしても、この規模で院内に在宅医療部門をもつところは少ないと思われます（佐久総合病院の地域ケア科）。

当院としては、次第に増えてきた地域の在宅療養支援診療所・支援病院と連携し、多くの患者さんを紹介し、在宅療養を行う患者・家族への支援を行っています。当院の患者数は当然ながら年々減少しています。

がん患者さんについては当院の緩和ケア病棟の役割(症状コントロール、在宅療養の支援)を発揮しながら、総合サポートセンターを中心に、他院に紹介した患者さんを地域の中で支援しています。

在宅療養の患者構成は多数の疾患が背景にあります。現在は大きくがん、非がんに分け対応します。非がんの中には脳血管障害、認知症、呼吸器／循環器疾患、神経難病などが含まれ、人生の最終段階の支援と緩和ケアを行います。また、急性増悪時には病院のベッドを利用し、緊急対応を行い、リセットして在宅療養を継続支援します。

「簡単に看取りと言わないで」：「看取り」が近いということで新たに導入になる方がいます。看取りという言葉が一人歩きします。しかし、在宅療養の中で回復し元気に何年か過ごされる方がいます。自宅という環境の中

では、きちんと対応することで不思議な力が発揮される
のです。

3. 活動と診療実績

(1) 在宅管理数

①在宅管理数 108人 / 年

②新規在宅管理数 91人 / 年

(2) 在宅医療と看取り

		入院死亡	在宅死亡	外来死亡
死亡21人	がん	11人	8人	0人
	非がん	11人	9人	

リハビリテーション科

1. 医師体制

役職名	氏名
診療部長	稻村 充則
部長	野口 周一

※他科と重複している場合があります

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特になし

被ばく相談外来

1. 医師体制

役職名等	氏名
精神科部長	雪田 慎二
※他科と重複する場合があります	

2. 概要、特徴、特色

被ばく相談外来は、完全予約制で行っています。広島・長崎の原爆被爆者、福島第1原発事故被害者、原発労働者などの健康相談を実施しています。

また、福島第1原発事故に関連して、福島県双葉町の住民を対象に甲状腺エコー検査を行っています。

禁煙外来

1. 医師体制

役職名等	氏名
健康増進センター長	小池 昭夫
内科技術部長	市川 篤
※他科と重複している場合があります	

2. 概要、特徴、特色

タバコを吸い続けてやめられない状態は、ニコチン依存症と診断され、治療が必要です。本人の能動喫煙以外に、周囲の受動喫煙による健康障害（発がん）の防止が注目されています。当院では、毎週木曜日の午後、完全予約制で禁煙外来を行っています。喫煙歴をきちんと把握したうえで、喫煙補助薬の処方、治療の経過を見守っています。禁煙スケジュールは12週間以内に5回受診します。また、2006年4月から一定の条件を満たせば健康保険等を使って禁煙治療を受けることができるようになりました。

3. 実績



小児科

1. 医師体制

役職名等	氏名
診療部長	和泉 桂子
部長	荒熊 智宏
副部長、(熊谷生協病院 副院長兼務)	平澤 薫
医長	藤田 泰幸
医長	金子 芳
非常勤	平井ゆかり、芳賀光洋、谷川祥陽、 齋藤陽子、中村明夫、岩本洋一

2. 診療科の特徴

当科は、川口市にある病床を有する数少ない小児科として、外来・入院診療の他、乳児健診・予防接種、様々な医療活動を行っています。川口市の小児夜間救急診療事業の2次医療機関として金曜日を担当しています。

病院全体のリニューアルおよび新病院開設に伴い、2023年8月に外来はふれあい生協病院へ移転し、2024年5月から入院も新病棟へ移転し、新たな環境のもと診療を継続しています。2病院化に伴い皆様へ御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後もこの地域の小児医療を支えていくためスタッフ一同力をあわせて皆様のご期待に応えられるよう努力していきます。

3. 活動と診療実績

(1) 外来医療

午前に一般外来を行い、午後に専門外来、乳児健診・予防注射をふれあい生協病院で行っています。時間外・夜間救急当番や救急車の受け容れ埼玉協同病院で行っています。診療 COVID19の外来での診療は行っていますが、小児の入院病床はなく、入院が必要な際は近隣の医療機関へご紹介をしています。土曜日の一般外来はweb予約（当日受付）を実施していましたが、今後平日もweb予約（当日受付）へ移行する予定です。

専門外来は、アレルギー・発達（神経）・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病があります。住み慣れた地域でできる限りの専門医療を提供すべく各医師が研鑽をつみながら、診療を継続しています。一部外来は外部の専門医のお力をおりして実施しております。

乳児健診は、計測・診察の他、多職種（看護師、保育士、管理栄養士、歯科衛生士等）の協力を得て、月齢に応じて育児支援として様々な講義指導を行ったり、個別

に相談指導を行ったりしています。予防接種は、接種困難な基礎疾患のある児（けいれん発作、アレルギーなど）にも対応しております。当科では1回に4本までの同時接種を行っております。

小児科外来患者数	年間 のべ 19,238人
小児科紹介患者数	年間 512人
川口市小児夜間救急	毎週金曜日 年間 322人
乳幼児健診	1ヶ月 256人、3-4ヶ月 144人、 6-7ヶ月 110人、9-10ヶ月 145人、 1歳 97人、1歳半 118人
合計	年間 870人（延べ人数）、 予防接種 年間 1,457人（延べ人数）

(2) 入院医療

COVID19流行以前と比べると入院数は少いものの、下気道感染、喘息、川崎病や尿路感染症といった小児のcommon diseaseを中心に入院診療を行っています。血液や循環器疾患等、当科では対応できない疾患につきましては専門病院へご紹介しています。病棟には保育士も在籍し、子供への関わりはもとより、保護者への子育てに関する悩みや困りごとについても、相談にのってもらっています。新生児に関しては分娩数も減少しており、新生児室へ入院する児も少ないですが、多呼吸・黄疸・低血糖などの入院が一定数あります。重症例に関しては、小児は近隣の高次医療機関やPICU、新生児はNICUへご紹介しております。

小児科入院患者数	年間 351人
産科分娩数	年間 256人
(再掲 早期新生児疾患入院数)	年間 84人
(NICU 搬送症例)	年間 1人

(3) その他の活動

小児の安全やよりよい環境を守るために月1回小児虐待対策チーム会議を行い、被虐待児のみでなく、事故で受診された児の状態についてもチームで把握、必要時行政への連絡を行うようにしています（小児虐待対策チームのページをご参照ください）。

子育て支援の一環として、子育て支援チームを主催で学童期・思春期子育て教室を行いました（子育て支援チームのページをご参照ください）。

地域の小児の健康を守る活動として当科所属の医師が、学校医（小学校3校）、園医（川口市内4園、市外3園）、川口市の3歳児健診（集団）を年8回、南部児

童相談所の嘱託医として活動しています。

■診療実績（診断群分類 6 柄別、2024年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病名 6 柄	傷病名	件数	平均 年齢	平均 在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	※手術あ り症例	診断 ・ 検査	その他 の加療
010081	免疫介在性脳炎・脊髄炎	1	3.0	1.0					1
010230	てんかん	5	8.2	2.6	3				5
010310	脳の障害（その他）	2	2.0	1.0	1	1		1	1
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	1	6.0	4.0					1
030270	上気道炎	10	0.0	4.3	1	3			10
030330	急性副鼻腔炎	1	2.0	6.0	1				1
030350	慢性副鼻腔炎	1	7.0	3.0					1
030440	慢性化膿性中耳炎・中耳真珠腫	1	1.0	4.0					1
030450	外耳の障害（その他）	1	1.0	5.0		1			1
030460	中耳・乳様突起の障害	2	0.0	3.0					2
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	15	1.5	5.5	3	1			15
040080	肺炎等	54	4.4	4.4	2	5			54
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	37	0.7	4.5	2	6			37
040100	喘息	20	3.1	4.3	5	1			20
060380	ウイルス性腸炎	11	6.2	4.8	4	3			11
070520	リンパ節、リンパ管の疾患	7	5.9	7.0		2			7
080010	膿皮症	6	2.2	6.0		3	1		6
080080	痒疹、蕁麻疹	1	9.0	4.0					1
080090	紅斑症	1	1.0	4.0					1
080270	食物アレルギー	4	0.8	1.5				2	2
100210	低血糖症	21	5.2	3.4	3	2			21
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	4	9.0	2.3		2			4
110275	急性腎炎症候群	3	8.7	12.0					3
110290	急性腎不全	1	10.0	2.0	1				1
110310	腎臓又は尿路の感染症	3	2.7	7.0					3
130111	アレルギー性紫斑病	2	5.5	11.0					2
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	95	0.0	5.9		2	13	1	94
150040	熱性けいれん	6	1.8	3.0	5				6
150070	川崎病	16	2.4	9.7		2			16
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	1	3.0	2.0	1				1
161060	詳細不明の損傷等	10	4.4	2.0	5	1			10
161070	薬物中毒（その他の中毒）	2	14.5	1.5					2
180030	その他の感染症（真菌を除く）	6	1.0	3.5		1			6
計		351	4.0	4.4	37	36	14	4	347

外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
外科部長	栗原 唯生
外科副部長	佐野 貴之
技術部長	井合 哲
	市川 辰夫
	長 潔
	井上 豪
	小野 聰
	浅沼 晃三
乳腺外科科長	金子 しおり
病棟医長	重吉 到
外科専攻医	花岡 伸之介
非常勤	1名

※他科との重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

当院外科は地域住民の健康維持を使命とし、住み慣れた環境で安心して医療を受けられる体制を整えています。腹部・肺・乳腺疾患に関する外科治療を幅広く実施し、多職種チームによる緊密な連携のもと、患者の生活・社会背景まで考慮した診療を提供することを理念としています。

消化器外科では、胃・大腸・肝胆膵疾患の良性・悪性病変に対し、低侵襲な腹腔鏡手術から進行がんに対する拡大手術まで幅広く行っています。日本内視鏡外科学会技術認定医を2名擁し、腹腔鏡手術を積極的に実施しています。高度進行がん症例では腫瘍内科と連携し、抗がん剤を含む集学的治療により成績向上を図っています。また、胆石症に対する手術件数が多い点も当科の特色です。胆膵内視鏡治療に豊富な経験を持つ消化器内科と密接に連携し、患者の状態に応じて迅速かつ柔軟に対応しています。

肺外科では、悪性疾患の手術時に、埼玉県立循環器呼吸器病センターと連携し、安全に手術を実施しています。

乳腺外科では、女性スタッフを中心とした多職種チームで連携し、患者の価値観や希望を最優先に治療を行っています。

3. 外来患者数

実患者数	のべ患者数
8,617人	12,339人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表 (188頁参照)

埼玉協同病院外科 手術実績	2022		2023		2024	
	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下
入院手術総数(手術室施行)	699	317	655	306	648	310
主な手術						
肺切除	14	10	11	11	13	12
悪性						
部分切除	3	3	3	3	2	2
葉切除	7	3	3	3	7	6
良性						
部分切除						
気胸	4	4	5	5	4	4
その他の胸部手術			8	7	6	6
悪性			2	1		
良性			6	6	6	6
食道切除						
悪性						
良性						
胃切除	31	12	28	11	22	11
悪性						
胃全摘	6		3		3	
幽門側切除	15	6	21	10	13	7
その他	10	6	3	1	6	4
良性						
幽門側切除						
その他						
大腸切除	95	48	84	54	85	51
悪性						
結腸切除	73	41	52	36	56	30
直腸切除	12	5	19	12	20	17
良性						
結腸切除	9	2	13	6	9	4
直腸切除	1					
その他の手術						
鼠径部ヘルニア	124		123	6	116	18
虫垂炎	72	71	66	64	59	58
小腸閉塞	13	1	18	4	39	3
消化管穿孔および腹膜炎手術	13	1	28	1	22	12
肝切除	16	3	13	4	17	4
悪性						
部分切除および外側区域切除	7	3	5	4	11	4
上記以外の切除	8		8		6	
良性						
部分切除および外側区域切除	1					
その他の切除						
脾切除(胃切除に伴うものを除く)	9		14	4	7	
悪性						
脾頭十二指腸切除	8		6		3	
脾体尾部切除			5	4	2	
その他の脾切除						
良性						
脾頭十二指腸切除			2		1	
脾体尾部切除					1	
その他の脾切除	1		1			
胆囊摘出(胃切除に伴うものを除く)	157	155	135	132	134	134
乳腺	58		71		71	
悪性						
乳房切除	28		32		27	
乳房部分切除	29		34		33	
その他					7	
良性						
腫瘍摘出	1		5		4	

乳腺外科

1. 医師体制

役職名	氏名
科長	金子 しおり

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

(1) 日本において女性のがん罹患率で乳がんが1位となっており、9人に一人が乳がんに罹患しています(2018年国立がん研究センター、がん情報サービスより)。年齢別の罹患数をみると30歳代後半から増加を始め、40代後半から70代後半まで高い罹患率となっています。2018年の統計では60代後半から70代前半にピークがあります。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるよう診療を行っています。

(2) 乳がん疾患に必要な設備を整え、乳がん疾患の精査から治療まで行っています。乳がん患者様の精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、メディカルスタッフとの連携を図っています。必要に応じて乳がんに精通した看護師やがん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師等との面談を提案します。また、当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

3. 診療実績

(1) 検査件数

検査	件数
乳房エコー	1,786
乳房超音波ガイド下生検 (CNB)	137
ST マンモトーム	10
乳房 MRI	68
マンモグラフィー	347

(4) 乳腺科診療チーム会議 (174頁参照)

■診療実績 (診断群分類 6 桁別、2024年退院患者)

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例※	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
090010	乳房の悪性腫瘍	88	65.5	5.6	1	34	64	21	67

(3) 手術件数

手術名	件数
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施しないもの)	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	24
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴うもの (内視鏡下によるものを含む。))	2
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	32
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル以上)	1
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル未満)	1
皮膚腫瘍摘出術 (露出部以外)(長径3cm 以上、6cm 未満)	1

整形外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
主任部長	仁平 高太郎
部長	桑沢 綾乃
副部長	遠藤 大輔
整形外科医長	丸木 千陽美
医員	櫻井 太郎 伊藤 淳哉

2. 診療実績

(1) 手術件数

手術	件数
人工関節置換術（膝）	401
人工関節置換術（股）	257
人工股関節置換術（手術支援装置を用いるもの）	214
骨折観血的手術（前腕）	60
骨折観血的手術（大腿）	38
人工骨頭挿入術（股）	34
骨折観血的手術（上腕）	34
骨折観血的手術（下腿）	23
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（後方椎体固定）	22
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（椎弓形成）	18
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（椎弓切除）	17
顕微鏡下腰部脊柱管拡大減圧術	17
多椎間又は多椎弓実施加算（椎弓切除）	15
骨折観血的手術（鎖骨）	13
人工関節置換術（肩）	12
椎間板摘出術（後方摘出術）	12
観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの）（大腿）	11
関節鏡下肩腱板断裂手術（簡単なもの）	11
化膿性又は結核性関節炎搔爬術（膝）	10
関節形成手術（手）	10
人工関節再置換術（股）	7
関節内骨折観血的手術（肘）	7
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径10センチメートル以上）（その他のもの））	7
股関節内転筋切離術	7
骨折観血的手術（手舟状骨）	6
骨折観血的手術（指）	6
骨折観血的手術（膝蓋骨）	5
母指対立再建術	5

骨折観血的手術（足）	4
神経剥離術（その他のもの）	4
四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術（軀幹）	4
腱縫合術	4
黄色靭帯骨化症手術	3
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（後方又は後側方固定）	3
経皮的椎体形成術	3
化膿性又は結核性関節炎搔爬術（股）	3
関節鏡下関節滑膜切除術（肘）	3
関節内骨折観血的手術（手）	3
関節内骨折観血的手術（足）	3
四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術（手）	3
腱移行術（その他のもの）	3
その他	103
計	1,425

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表（188頁参照）

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2024年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病名 6 桁	傷病名	件数	平均 年齢	平均在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例
070010	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く）	5	46.8	4.2		5	5
070050	肩関節炎、肩の障害（その他）	6	76.0	14.0		2	6
070080	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症（上肢）	6	43.8	7.0		3	6
07010x	化膿性関節炎（下肢）	14	66.8	57.6	3	8	11
070160	上肢末梢神経麻痺	13	73.4	3.6	1	6	13
070200	手関節症（変形性を含む。）	13	71.1	5.2		6	13
070230	膝関節症（変形性を含む。）	395	73.7	25.8		210	395
070280	骨端症、骨軟骨障害・骨壊死、発育期の膝関節障害	14	69.5	21.8		9	14
070290	上肢関節拘縮・強直	3	74.7	3.3		2	3
070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 頸部	18	77.1	22.3	1	6	17
070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎	59	73.3	18.8	1	16	53
070350	椎間板変性、ヘルニア	9	61.6	15.2		5	9
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	463	67.8	20.3		280	460
070470	関節リウマチ	7	65.9	30.7	1	3	6
070610	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形（上肢）	9	53.9	5.6		8	9
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	10	75.4	50.7	4	3	8
080007	皮膚の良性新生物	3	59.7	3.0		1	3
080010	膿皮症	3	85.7	18.7	1	1	1
160610	四肢筋腱損傷	26	62.1	6.5		16	26
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む）	9	39.9	4.3		6	9
160660	皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	6	71.2	8.3	3	2	2
160700	鎖骨・肩甲骨の骨折	17	54.1	3.5		11	17
160720	肩関節周辺の骨折・脱臼	37	67.4	10.6	3	26	37
160740	肘関節周辺の骨折・脱臼	26	46.6	5.2		19	24
160760	前腕の骨折	67	61.6	3.5		57	67
160770	前腕の開放骨折	4	43.0	16.3	1	3	4
160780	手関節周辺の骨折・脱臼	27	43.4	3.6		23	27
160800	股関節・大腿近位の骨折	95	79.3	35.7	26	51	87
160820	膝関節周辺の骨折・脱臼	21	66.4	16.3		15	16
160835	下腿足関節周辺の骨折	8	54.3	15.0		7	8
160850	足関節・足部の骨折・脱臼	23	55.0	12.4	2	19	23
160980	骨盤損傷	4	78.0	42.5	3	2	2
180040	手術・処置等の合併症	6	73.8	45.8	1	4	5
	その他の傷病	32	67.6	29.7	2	16	24
	計	1,458	64.1	17.3	53	851	1,410

脳神経外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	石丸 純夫
非常勤	須田 喜久夫
	川口きゅうぱらリハビリテーション病院
	脳神経外科専門医・指導医
	脳卒中専門医・指導医
井出 光信	
	脳神経外科専門医

2. 概要、特徴、特色

外来診療のみですが、脳卒中救急に関する相談や、病棟での脳卒中・頭部外傷患者さんのコンサルテーションに対応しました。

脳卒中の症例は多く、救急や当直帯での問い合わせもコンスタントに増えてきています。南部MCの連携病院として、また、日本脳卒中協会に「一次脳卒中センター」として登録されたこともあり、脳卒中救急はたくさん受けていただいています。

慢性硬膜下血腫の手術適応患者さんは、済生会川口総合病院などに転送させていただいておりますが、外来での保存的治療・経過観察例もあります。

ボトックス治療は、顔面けいれん・眼瞼けいれんに対して施行しています。

重度の片頭痛患者さんに、CGRP抗体製剤の注射治療も行っています。

- ・日本脳卒中学会教育研修病院（2017年12月から）
- ・埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（SSN）、南部MCの連携病院（2017年12月から）
- ・日本脳卒中協会の一次脳卒中センター（2019年12月から）

3. 外来診療実績

(1) 外来診療

脳外科外来患者数	1,583人	
(うち紹介患者数)	(136)	
t-PA 施行例	0例	
血栓回収のための転送例	1例	
ボトックス治療施行件数	50件	
/SSN 依頼件数（*）	13件	
脳卒中	救急受入数	入院患者数
合計	72人	168人
脳梗塞	63人	145人
脳出血	8人	22人
くも膜下出血	1人	1人
慢性硬膜下血腫		
外来・救急新患数	34人	

（*）期間：2023年4月～2023年9月

	救急受入数	入院患者数
頭部外傷	6人	12人

頭痛	病院全体	脳神経外科
片頭痛	298人	117人
緊張型頭痛	102人	70人

CGRP抗体製剤使用：8人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育・研修

- ①毎週火曜日7時30分 救急症例検討会に参加
- ②毎週木曜日14時 南5病棟リハビリテーションカンファレンスに参加
- ③毎週月曜日16時 脳卒中急性期入院リハビリの検討会に参加
- ④10月～11月、研修医対象 金曜日7時30分、脳疾患画像のレクチャー 8回施行
- ⑤10月 放射線科技師対象 「緊急性のある脳疾患の画像」のレクチャー

産婦人科

1. 医師体制

役職名	氏名
部長	市川清美
副部長	榎本明美
	芳賀厚子
医長	伊藤淨樹
(研修出向中)	春日みさき
	橋本弥生
(研修受け入れ)	渡辺晃子
	成清 恵
非常勤	竹内育代
	岡野滋行
	荻島樹里
	堀内 功
	高木耕一郎
	三澤将大
	武津由理
	柴川未来
	長谷川美奈
	大澤奈月
	木原彩智
嘱託	神谷 稔

2. 概要、特徴、特色

5年前の2019年度の分娩数531件に対して今年度は258件です（表1）。地域全体の分娩数も減少傾向ではあります。当院の妊娠・分娩管理のあり方が地域のニーズとかみ合っていないことの現れと考えなければなりません。1981年に外来、1983年に分娩を取り扱い始めてから、「地域が産み育てる」「極力自然な分娩で女性の主体性を引き出し、家族で赤ちゃんを迎える」ということを大切に年間1,000件を超える分娩を行っていた時期もありました。時代の流れとして周産期管理の集約化が強調され、周産期センターと無痛分娩を取り扱う有床診療所に分娩が二極化していく中、中規模病院では分娩の取り扱いを中止するところも少なくありません。しかし実態をみると周産期センターでの管理を要するほどのハイリスクとは言えないが総合病院での管理が望ましいと思われる方や、社会的背景が複雑で地域の中で公的機関とも連携しながら出産後の育児を見通して関係性を構築していく必要性の高い方など、まだまだ当院で産科医療を継続して行く意義はあると考えています。今年度も分娩が減る中でも、川口市 さいたま市 草加市から委託を受

けた産後ケア入院（52件）、産後うつの一時入院や児の一時保護委託、特別養子縁組など当院だからこそ医療を展開できたという自負はあります。今後は希望者に対する硬膜外麻酔を使用しての産痛緩和を徐々に取り入れながら、時代に見合った妊婦主体の分娩を他科（麻酔科・小児科）とも連携し患者様を中心に作り上げていこうと考えています。切迫早産や高度な管理を要する胎児などの場合は、早めに周産期センターへ紹介したり、母体搬送を受けていただいたりしながら地域の周産期医療の中で役割を発揮していきたいと考えています（表2）。出生前診断は、やっと出生前検査認証制度等運営委員会が日本医学会に設けられ活動が本格化してきたため、妊娠初期全妊婦に情報提供を行い必要な方には検査施設への紹介も行い、妊娠中期に検査を受けた方の状況等を確認する体制をとったため、来年度からは統計反映できると考えています。

婦人科手術は211件（2023年度217件）とほぼ横ばいでした（表3）。早期の腹腔鏡手術の本格的な導入が待たれているところです。

月経随伴症状や更年期障害に対してのホルモン治療も多くの患者様に支持され（表4）、また治療していく中で妊娠に向けてのプレコンセプションケアや乳腺疾患・生活習慣病・骨粗鬆症等の発見や保健指導等も行っています。

子宮癌検診はふれあい生協健診センターと当院産婦人科外来で行った検診数と合わせた総数は2023年度6,062件に対し9,853件と約3,800件増加しました（表5）。進行癌の紹介症例の中には一度も産婦人科を受診したことの無い中高年の患者様もいらして、妊娠と関係なく産婦人科を受診しやすい社会にしていく必要性を感じました（表6）。HPVワクチンを新たに70人（公費11キャッチアップ35+職員24）の方に接種しました。

東京女子医科大学附属足立医療センターで研修をさせていただいた専攻医も専門医となり現在他院にて研修出向中です。自治医科大学さいたま医療センターからの専攻医研修を継続的に受け入れている他、初期研修医のローテート研修（院内7人 関連病院から2人）も行いました。

2026年春には病棟の隣に外来も移転し、女性外来として乳腺外科とともに一つのエリアで診療を行っていくこととなります。当院での女性医療が地域に必要とされるものとなっていくよう、他科やスタッフと力を合わせて行きたいと考えています。

3. 診療実績

図表のみとします。

表1 分娩数と出産年齢および合併症

年代別分娩数	
19歳以下	4
20~24歳	19
25~29歳	83
30~34歳	94
35~39歳	44
40歳以上	14
計	258
帝王切開	73
合併症妊娠	
子宮筋腫	11
精神疾患	15
甲状腺疾患	11
高度肥満 (BMI \geq 35)	15
GDM	27
(インスリン使用)	18
HDP	9
縫縮術	7

表4 ホルモン療法患者数

低用量ピル	
トリキュラー	20
ルナベル・フリウェル	297
ヤーズフレックス	58
ドロエチ	48
計	423
エストラーナテープ	98
メノエイドコンビパッチ	46
ディナゲスト・ジェノゲスト	315
ミレーナ (子宮内避妊薬)	68
GnRH	
リュープリン	69
ナサニール	10
レルミナ	88
ディビゲル	15
婦人科特定疾患治療管理	
器質性月経困難症	155

表2 母体搬送の週数および紹介先

週数	
~22週	
23~27週	1
28~31週	1
32~34週	2
35週以上	
搬送先	
さいたま赤十字病院	1
川口市立医療センター	1
越谷市立病院	1
獨協医科大学埼玉医療センター	1

表3 手術

傷病名	
子宮頸部異形成・上皮内癌	47
子宮筋腫	50
骨盤臓器脱	23
卵巣腫瘍	41
子宮頸管縫縮	10
異所性妊娠	6
子宮内膜増殖症	9
その他	25

表5 がん検診

埼玉協同病院	ふれあい生協病院
子宮頸部	2,694 7,159
NILM	2,149 6,984
ASC-US	355 84
ASC-H	30 3
LSIL	80 63
HSIL	46 21
AGC	20
SCC	6 2
Adenocarcinoma	8
AIS	
材料不適	1 1
子宮体部	1,533 5,637
陰性	1,422 5,562
疑陽性	79 18
陽性	10 3
材料不適	22 54

表6 悪性腫瘍紹介数

紹介先	
獨協医科大学埼玉医療センター	6
自治医科大学附属さいたま医療センター	4
国立がん研究センター中央病院	4
がん・感染症センター都立駒込病院	1
がん研有明病院	1
東京女子医科大学附属足立医療センター	1
東京大学医学部附属病院	1
悪性腫瘍	
子宮体がん	11
子宮頸がん	5
卵巣腫瘍	2

4. 教育・研修・研究活動

〈学会発表〉 下記

1-1. 学術・研究等の発表

■2024年

氏名	演題名 (共同研究者名)	集会名 (開催日)	開催場所
朝倉美香	Edwardsiella tarda による卵管膿瘍から敗血症をきたした一例 (芳賀厚子 木原彩智 伊藤淨樹 榎本明美 市川清美)	第147回関東連合産科婦人科学会総会 学術集会 6月16日	日本都市センター会館
木原彩智	劇症型 A 群溶連菌感染症により妊娠 11週進行流産後に敗血症性ショックに至った一例 (芳賀厚子 伊藤淨樹 榎本明美 市川清美)	第104回埼玉産科婦人科学会・埼玉県産婦人科医会 令和6年度前期学術集会 7月6日	埼玉県県民健康センター
渡辺晃子	治療に難渋した産褥期 MRSA 感染症の2症例 (芳賀厚子 伊藤淨樹 榎本明美 市川清美)	第105回埼玉県産婦人科医会・埼玉産科婦人科学会 令和6年度後期学術集会 11月17日	TKP ガーデンシティ PREMIUM 大宮

2-1. 講演会活動等

氏名	講演名	主催・公演日	開催場所
芳賀厚子	なぜ日本は子どもが増えないのか？？ 女性と子どもの貧困・外国人の医療・出生前診断 ～産婦人科医療の現場から～	春日部母親大会 6月30日	春日部市民文化会館
芳賀厚子	女性と子どもの貧困 外国人の医療・出生前診断 ～産婦人科医療の現場から～ 人権を尊重する国へ！！	ソーシャルワーク演習講義 7月5日	明星大学日野キャンパス
芳賀厚子	女性と子どもの貧困・外国人の医療・出生前診断 ～産婦人科医療の現場から～ 人権を尊重する国へ！！	ジェンダー平等をすすめる教育全国ネットワーク 10月27日	全国教育文化会館・エデュカス東京

2-2. 著書・論文等

■著書・論文

氏名	題名	掲載誌等
窪田有希	糖尿病合併患者が子宮腺筋症にガス産生菌 (Anaerococcus tetradius) 感染をきたし敗血症に至った一例	埼玉産科婦人科学会雑誌第54巻2号2024年9月
市川清美	卵巣のう腫	けんこうと平和 No.388 2024年9月
芳賀厚子	産婦人科医からみた女性と子どもの人権 ジェンダー平等をすすめる教育 全国ネットワーク会報	No.110 2024年秋号 12月13日
木原彩智	劇症型A群溶連菌感染症により妊娠11週進行流産後、敗血症性ショックに至った一例	埼玉産科婦人科学会雑誌第55巻1号2024年3月

皮膚科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	伊藤 理恵
医員	飯島 孝四郎
非常勤・専攻医	5名

2. 概要、特徴、特色

皮膚科には常勤医 2 名、帝京大学より専攻医 1 名、非常勤医 4 名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつで、日本皮膚科学会認定の研修施設です。この 6 名で平日午前中の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかり診断し治療することを基本方針として診療をしています。診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコー や MRI、CT などの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法のほか、手術療法や紫外線治療（中波紫外線）、アトピー性皮膚炎や乾癬に対する生物製剤、ジャック阻害剤治療も取り入れ効果をあげています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様の QOL 向上に有益と考えています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

平日午前中は 3 ~ 4 人体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2024年度の皮膚科延べ外来受診数は 19,658 人であり、月平均外来受診人数は 1,600 人を超えていました。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウィルス性皮膚疾患、尋常性座瘡、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

(2) 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。2024年度の手術件数は 457 件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。内容は表皮囊腫、脂肪腫、母斑などの

良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

(3) 紫外線治療

当科には中波長紫外線治療器（全身型、ターゲット型）があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症などに対して光線治療を行い良好な効果をあげています。

(4) 生物製剤による治療

アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬に対して各種生物製剤にて治療を行っています。

(5) 自費診療部門

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

①アンチエイジング目的	イオン導入	36件
	ケミカルピーリング	29件
②男性型脱毛症への内服治療		
③円形脱毛症などに対する局所免疫療法（SADBE 治療）		
④陥入爪への超弾性ワイヤーによる治療		

(2024年 4 月～2025年 3 月)

4. 学術・研究、講習、研修会等の記録

(1) 教育・研修

水曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

(2) 学会・医学雑誌発表

- 1) 木片による異物肉芽腫の 1 例（日本皮膚科学会誌134巻 5 号1532 2024）
- 2) デュピルマブ投与中に乾癬様皮疹を生じたアトピー性皮膚炎の 1 例（日本皮膚科学会誌135巻 2 号360 2025）

(3) 講演会活動

- 1) アトピー性皮膚炎の新薬治療 -生物製剤とジャック阻害剤-
- 2) リンヴォック錠を使用したアトピー性皮膚炎の自験例
- 3) 小児アトピー性皮膚炎に対するデュピクセント診療の実際
- 4) 市民公開講座「暮らしのなかの皮膚トラブル -薬やサプリメントによる薬疹 / 皮膚障害-」

眼科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	太根 伸浩
非常勤	4名

2. 概要、特徴、特色

前年度から引き続き、外来は常勤医1名体制で、非常勤として週3回は帝京大学病院から派遣医師が担当しています。診療内容が多岐にわたるため 基本的な一般検査一式だけでなく、OCT・エコーなどの画像診断や各種血液検査も併用し、幅広い眼科全般の診察（角膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・RVOなど網膜疾患）に対応しています。

特に専門である緑内障に関しては、より詳細な診療を行っています。また神経眼科や頭頸部疾患の境界領域に対しても、脳外科・耳鼻咽喉科などと連携し、CT・MRIなどの画像診断を通じて、可及的速やかに対応できるようにしています。

その他の全身疾患に関しても、他科と積極的に連携し、早期発見・早期治療を目指しています。当院で対応が難しい各疾患に対しては、それぞれの専門医が在籍の各連携施設にご紹介いたします。

3. 診療実績

(1) 外来診療

月・水曜日は2診療体制、その他は1診療体制で外来診療を行っています。午後は視野など含め検査やレーザー治療などを中心に行っています。

(2) 外来患者数（2024年4月～2025年3月）

実患者数	のべ患者数
5,058人	7,269人

(3) 手術（観血的）

毎週月・水曜日（午後のみ）に手術を行っています。白内障・緑内障を中心ですが、引き続き抗VEGF抗体硝子体注射も行っています。特に緑内障に関しては、最近、注目されてきている「より負担の少ない最小侵襲緑内障手術（MIGS）」も積極的に施行しています。

規模的制約があるため、角膜（内皮）移植や硝子体手術などの、より専門的で高度な設備が必要なケースは、各疾患の専門医が在籍している連携機関（大学病院など）

にご紹介しています。

コロナ禍のため、手術の延期・中止が多数ありました。状況は改善してきました。手術やレーザー機器の老朽化により新規購入し、実施可能になりました。

術式	症例数（のべ）
白内障	44件
硝子体注射	18件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

スタッフを含め、東京都・埼玉県など近隣の教育・研修会などに積極的に参加しています。

耳鼻咽喉科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	堤内 亮博
専攻医	久壽米木 駿
非常勤医	20名程度

2. 概要

2023年4月より現職の堤内亮博が部長に赴任し、2024年度は2年目となりました。2024年7月から東京大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医局より専攻医1名をローテーターとして常勤で派遣してもらえるようになったのが、2024年度最大の出来事です。常勤2名体制を許して下さった管理部の方々に感謝申し上げます。

常勤2名で協力して前任の越智医師が尽力して整備して下さった診療体制をより充実させることを以下の課題と考え、日々の診療に邁進した1年となりました。着任時より当科のコンセプトは、“開業医では対応しきれないが高度医療機関を受診するほどではない方が、お住まいの地域内で必要充分な治療を受けられるような診療を提供すること”としております。頭頸部悪性腫瘍の大手術や嚥下改善手術、一部の音声改善手術などの特殊な手術を除いた耳鼻咽喉科領域の手術全般に対応するとともに、部長のサブスペシャリティとしてやや高度な耳科手術や外来での声帯内コラーゲン注入術にも対応しております。

ふれあい生協病院に移った際、外来診療については2診それぞれ完全に別ブースで診療できるようになり、電子スコープや顕微鏡も2診で共有ではなく各ブースに用意してもらいましたので、患者のプライバートに配慮した診療が行えています。2024年7月以降は平日の大半を3診体制としており、より多くの患者のニーズに応えられるようになりました。2024年1月より導入した完全予約制も軌道に乗っており、紹介患者枠や当日枠も比較的うまく運用できているようで、患者や地域連携医からの苦情はほとんどないようです。

3. 診療実績

前任時代から継続して東京大学耳鼻咽喉科医局から毎日1-2名の医師を派遣していただき、月曜日から土曜日まで午前中は常時2診体制で外来を行いつつ、月曜日午後、水曜日午前から午後にかけて手術室での手術を行

っております。火曜日午後にはエコーバイド下細胞診(院内の甲状腺内科や地域の病院の内科からの依頼が持続的にあります)を行うとともに、地域の補聴器店と連携して補聴器外来も継続しています。水曜日・木曜日の午後には声帯内コラーゲン注入術やトランフェルミン浸潤スプレーによる鼓膜穿孔閉鎖術、鼓室内ステロイド投与などの外来処置・手術を積極的に行うようにしています。

領域	領域別 件数	術式	件数
耳	82	先天性耳瘻管摘出術	7
		鼓膜切開術（外来）	6
		鼓膜チューブ挿入術	23
		鼓膜チューブ挿入術（外来）	20
		鼓膜穿孔閉鎖術（外来）	10
		鼓膜形成術	4
		鼓室形成術	8
		乳突削開術	1
		アブミ骨手術	1
		外耳道腫瘍摘出術	2
鼻	74	内視鏡下鼻・副鼻腔手術	23
		鼻中隔矯正術	9
		下鼻甲介切除術*	6
		鼻骨骨折整復術（外来）	1
		鼻腔粘膜焼灼術（外来）	35
口腔 咽頭	54	口蓋扁桃摘出術*	26
		アデノイド切除術	9
		軟口蓋形成手術	3
		下咽頭腫瘍摘出術	1
		唾石摘出術（外来）	0
		組織試験採取（口腔、含小唾液腺生検）	15
喉頭 気管	12	気管切開術	1
		声帯ポリープ切除	4
		喉頭蓋囊腫摘出術	1
		声帯内コラーゲン注入術（外来）	6
頸部	13	甲状腺部分切除	2
		頸嚢摘出術	4
		深頸部膿瘍切開術	0
		リンパ節摘出術	6
		耳下腺部分切除	1
合計	235	*両側同時施行は1例とカウント	

外来延べ患者数	
2024年 4月	793
2024年 5月	854
2024年 6月	761
2024年 7月	793
2024年 8月	806
2024年 9月	790
2024年10月	865
2024年11月	864
2024年12月	823
2025年 1月	812
2025年 2月	762
2025年 3月	873
合計	9,796

精神科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	雪田 慎二
副部長	荻野マリエ

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の精神科は1986年に開設されました。当初は精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、30年が経過しました。現在は常勤医師2名の体制で診療を行っています。

長らく日本の精神医療は、単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきました。しかし、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになり、現在は、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べて精神科医療は敷居の低い存在となっています。一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、総合病院精神科の必要性が周知されつつある現在でも、常勤医師が複数名所属する病院は非常に少ないので現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として以下の特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方（概ね高校生以上）まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、うつ病、不安障害、アルコール性依存症、認知症、慢性期の統合失調症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近は出産子育ての過程で精神的に不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

①再来：月曜日～金曜日、1～2診体制、実患者数888人、外来延べ患者数 6,884人

②新患：月曜日、2人/週、実患者数110人
(院内からの紹介に限る)

③被ばく相談外来：第1火曜日、放射線被ばくによる健康問題の相談援助

(2) 精神科デイケア：月曜日～金曜日、登録者数44人、延べ利用者数2,043人

(3) 病棟診療

①他科の入院患者への精神科医療の提供。他職種によるチーム活動。

- 1) 緩和ケアチーム (178頁参照)
- 2) 認知症ケアチーム (184頁参照)
- 3) 精神科リエゾンコンサルテーションチーム (186頁参照)

②緩和ケア医療 (病棟スタッフとして診療)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 精神科多職種カンファレンス 毎週月曜日

(2) 精神科抄読会 毎週木曜日または金曜日

(3) 講演活動等

ひかり協会 「緩和医療の基本的な考え方～在宅療養を中心～」

平和のための埼玉の戦争展 「感染症と戦争・軍隊を考える②～性感染症から見た軍隊～」

医療・ケアネット県南 「コロナ禍のもとで緩和医療のあり方を見直す」

麻酔科

1. 医師体制

役職名等	氏名
主任部長	西川 賀
部長	畔柳 紗
副部長	黒羽根 朋子
技術部長	岩切 裕子
医長	金子 吾朗

2020年度より日本専門医機構の基幹病院に認定され、研修医の受入を行っています。

2. 概要、特徴、特色

(1) 麻酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術前診察目的で月曜日と金曜日と土曜日の週3回、F館2階で行っています。3診中2診で看護師の問診を行い、1診で医師の診察を行っています。2024年度の麻酔科外来総患者数は3,840人でした。

(2) 手術件数

2024年度の総手術件数は2,649件です。そのうち麻酔科管理は2,162件(81.6%)でした。現在は全身麻酔管理だけでなく、エコーを用いた各種神経ブロック麻酔も行っています。診療科別手術件数は次のとおりとなっています。

診療科	件数
外科	613
整形外科	1,571
産婦人科	263
泌尿器科+内科	32
眼科	67
耳鼻咽喉科	103
計	2,649

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表 (188頁参照)

THRIVEは病的肥満患者にも無換気での酸素化を提供しうるか (日本麻酔科学会第71回学術集会)

安定した循環動態から得られる循環作動薬-自動投与制御システムの開発 (日本麻酔科学会第71回学術集会)

全身麻酔中の非侵襲連続推定1回拍出量係数(esSVI)の変動状況の検討 (日本麻酔科学会第71回学術集会)

(2) 講演

麻酔科における臨床安全の現状と課題（第1回医療安全推進学会学術集会）

(3) 論文

Development and evaluation of an automated phenylephrine delivery system by lower limit control for managing intraoperative hypotension. (Journal of Anesthesia, 2025 Jun; 3a (3) : 372-388)

ペインクリニック

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	畔柳 綾
医長	金子 吾朗

2. 概要、特徴、特色

2025年4月からは毎週月・木に診察を行なっています。三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、腰下肢痛、肩上肢痛など慢性痛に対して、エコーガイド下神経ブロック、透視下神経ブロック、高周波熱凝固術など、腋窩多汗症に対してボトックス治療も行っています。フットケア治療の一つとして、脊髄刺激療法を始めました。対象は、末梢血管障害による痛み、脊椎・脊髄疾患による痛み、その他神経障害性疼痛になります。

また、がん疼痛に対して、腹腔神経叢ブロックや、フェノールサドルブロック、脊髄鎮痛などの処置も行っています。治療内容によっては、入院治療も行っております。

(1) 外来患者数 (2024年4月～2025年3月)

病名	患者数
帯状疱疹後神経痛	753
頸椎症	363
腰部脊柱管狭窄症	235
腰椎椎間板ヘルニア	232
頸肩腕症候群	217
三叉神経	93
肩関節痛	83
顔面麻痺	76
術後疼痛	67
癌性疼痛	44
化学療法誘発	20
腰椎すべり	17
腰椎症	9
外傷後疼痛	6
末梢神経障害	2
その他	214

(2) 神経ブロック別統計

星状神経節ブロック	308
硬膜外ブロック	571
三叉神経ブロック (注1)	32
がんの神経ブロック (注2)	6
肋間神経ブロック	63
神経根ブロック	118
その他	177

(注1) 眼窩上、眼窓下、おとがい、
ガッセル神経節ブロック 5件)

(注2) 腹腔神経叢、硬膜外・くも膜
下カテーテル留置)

(3) 脊髄刺激療法 16件

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表 (188頁参照)

帯状疱疹後の排尿障害に脊椎電極療法が有効であった一例
(第58回日本ペインクリニック学会学術集会)

(2) 講演

がん疼痛と神経ブロック (緩和ケア研修会)

(3) 論文

自動薬物投与システムの運用に際しての留意事項
(日本臨床麻酔学会誌)

病理診断科

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207参照)
部長	石津 英喜

2. 概要、特徴、特色

組織診断では難しい症例は東京科学大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断をしております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた4名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 認定施設

日本病理学会登録施設

日本臨床細胞学会教育研修施設

日本臨床細胞学会認定施設

(2) 症例検討

病理科内での症例検討会 週1回

消化器カンファレンス 週1回

CPC (臨床病理検討会) 医局主催で月1回

乳腺画像カンファレンス 週1回

乳腺キャンサーボード 週1回

消化器キャンサーボード 週1回

4. 診療実績

(1) 検体数の推移

(2023年移行はふれあい生協病院分も含む)

	解剖数	組織診数	細胞診数
2017年	8	5,930	6,436
2018年	14	5,551	6,266
2019年	11	5,145	6,236
2020年	5	4,634	6,650
2021年	7	4,851	6,768
2022年	3	4,509	6,110
2023年	4	4,562	5,811
2024年	5	4,406	5,782

(2) 細胞診 (62頁参照)

(3) 法人内院所別統計

別 Word データ (24-1 病理診断科を参照)

放射線科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	吉田 英夫
技術部長	松本 俊一
医長	岡崎 百子

2. 概要、特徴、特色

常勤医 3 名および非常勤医師で、CT、MRI を中心とした画像診断、読影を行っています。

画像診断管理料 I 、画像診断管理料 II 、遠隔画像診断 II 等を加算しています。各診療科、各主治医との連携を密に適正な検査および迅速な診断を行っています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

定期的に研修医・若い放射線技師に対して、CT 画像、MRI 画像の診断をはじめ、放射線の基本的なことを教育・研修しています。

緩和ケア内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	佐野 広美
	雪田 慎二
	高橋 千春
非常勤	有田 圭介

2. 診療科の特徴

1980年代初頭、我が国において緩和ケアを実践する医療施設が開設され「ホスピス」と呼ばれていました。時は流れ、この10年の間に「ホスピス」は緩和ケアに特化した在宅系施設を指す言葉に変わってきています。一方で、緩和ケア病棟はさまざまな面で医療化が進み、インターベンションや医療機器を使用した症状緩和に取り組めるようになりました。しかし医療化の結果、医療安全や感染症対策など多くのルールに縛られ、もはや「その人らしい最期の時間」を過ごす場所ではなくなってきていることも事実です。一部では「看取りビジネス」と揶揄される在宅系「ホスピス」ですが、その病床数は既に緩和ケア病棟の病床数を上回り、在宅医も積極的に「ホスピス」での診療に入っています。「病院」という枠にはめ込まれたなかで、緩和医療だけではない緩和ケアを提供し「ホスピス」に競り負けないために何をすべきなのか、われわれが取り組んでいる課題です。

3. 活動と診療実績

当院は日本緩和医療学会の専門医認定制度が定める基幹施設として、専門医・指導医が在籍しています。緩和ケア病棟は緩和ケア病棟入院料1の要件を、緩和ケアチームは緩和ケア診療加算の要件を、それぞれ満たす高水準な緩和ケア診療提供体制を整えています。

(1) 緩和ケア病棟

新病棟2年目を迎え、入院患者数、病床利用率など前年を上回る結果を残すことができました。期間中の退院患者数290名（前年263名）でした。今年度の特徴としては、前述のような施設への退院患者が前年度の9件から25件に増え、病床の回転率が上がったことです。従来は退院後に空床ができるがちだったものが、院内各科、地域医療機関との密な連携で実績を上積みすることができました。11月には毎年恒例の地域連携カンファレンスを開催、院外12施設から27名の参加をいただき活発な意見交

換ができました。

(2) 緩和ケアチーム

34件（がん28件、非がん6件）の依頼があり、延べ47回のチーム診療を行いました。活動の特徴として、25回は臨時回診で、依頼日当日にタイムリーな介入が増えました。一方で、各科先生方が医療用麻薬の使用など緩和ケア診療について十分に対応してくださるようになり、依頼件数は減っています。次年度に向け、緩和ケアチームを紹介するe-learningを作成し、身体症状以外の相談、医師以外からの相談にも対応できることを院内に知っていただける活動をしています。10月にはホスピス緩和ケア週間のイベントとして職員を対象に「もしバナゲーム」を開催、多職種34名の参加があり、ゲームをしながらACPについて学ぶ機会になりました。

(3) 緩和ケア外来

24名の初診患者があり、紹介元は院内15名、他施設9名でした。主には抗がん終了後で全身状態が維持されている患者の症状マネジメント、療養支援を行っています。適切なタイミングで訪問診療や緩和ケア病棟につながるようにしています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①学会・ 総会等	佐野 広 美(医師)	肺腺癌、乳 び腹水に対 しオクトレ オチド持続 皮下注が有 効であった 症例	第29回日本 緩和医療学 会学術大会 (2024年6 月14日、15 日)	神戸コンペ ンションセ ンター(兵 庫県)
①学会・ 総会等	佐野 広 美(医師)	肺癌胸壁浸 潤による難 治性疼痛に 対して、く も膜下ポー トを造設し 約3か月の 自宅療養が できた症例	第6回日本 在宅医療連 合学会大会 第6回日本 在宅医療連 合学会大会 (2024年7 月20日、21 日)	幕張メッセ 国際会議場 (千葉県)
①学会総 会等	有田 圭 介(医師)	長期間の在 宅医療の後 に自宅で看 取った超高 齢者の胆囊 炎の一例	同上	同上
①学会総 会等	佐野 広 美(医師)	患者自身の 意思決定で 血液透析を 中止し緩和	第47回日本 死の臨床研 究会年次大 会(2024年)	札幌コンペ ンションセン ター(北海 道)

	ケア病棟に入棟したがん患者2例の緩和ケア診療における主治医の後悔	10月12日、13日)	
--	----------------------------------	-------------	--

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学連交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研

会場：ZOOM

(2) 講演会活動・座長・リマークス等

講演日 (役割)	氏名 (職種)	講演名	主催者	会場 (都道府県)

役割：座長・リマークス等

(3) 著作・論文、寄稿等

区分 (番号)	題名	筆者 (主に○)	掲載誌

区分：①著作・論文、②寄稿

5. 資料

健康増進センター

1. 医師体制

役職名等	氏名
健診センター長	小池 昭夫
医長	照井 幸雄

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

人間ドックをはじめ、特定健診、一般健康診断、事業所健診、保健指導のほか、各種予防接種を行っています。

胸部X線検査は、すべての画像を二次読影まで行い、随時カンファレンスを行っています。また、埼玉県労働局の委託を受けて健康管理手帳所持者のじん肺・石綿健康診断を行っています。

- ・人間ドック健診指導医 1名
- ・マンモグラフィ検診施設・画像認定施設

3. 実績

(1) 健康診断数（2024年4月～2025年3月）

健康づくり健診	204件
特定健診	3,762件
被ばく者健診	39件
国保ドック	2,182件
医療生協さいたまドック	766件
じん肺健診	232件
事業所健診	10,337件
協会けんぽ	9,129件
上記以外の健康診断	4,372件
合計	30,612件

4. 次年度に向けて

- 質の向上及び精度管理をすすめます。
- 受診者の要望に応えます。
- 収益確保をめざします。
- 業務の効率化をすすめます。
- 健診後フォローの充実をすすめます。
- じん肺・アスペスト外来の充実を図ります。